事例 4

小中合同の部会を子どもの課題に応じて改編し、持続可能な連携体制を構築

北海道　稚内市東地区

北海道稚内市の東地区では、1中2小での連携を強化している。「小中一貫の日」を設定し、3校の全教員が協働して学習指導や生活指導のあり方を検討したり、小小・小中で授業を通じた交流を活性化させたりするなど、小中一貫教育の実現に向けた取り組みを推進中だ。

◎稚内市は、日本最北端に位置し、東はオホーツク海、西は日本海に面する。南・北・東・潮見の市内4地区で小中連携に力を入れている。小学校2校、中学校1校から成る東地区では、3校の全教員が参加する小中一貫教育推進委員会を組織し、連携を充実させている。

稚内東中学校　生徒数223人、学級数10学級（うち特別支援学級3）
稚内東小学校　児童数335人、学級数18学級（うち特別支援学級6）
声問小学校　児童数14人、学級数3学級

電話　稚内市教育委員会学校教育課 0162-23-6519（学校教育グループ）
URL　https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp

稚内市立稚内東中学校
校長
本間一臣
ほんま・かずおみ
同校に赴任して4年目。

稚内市立稚内東小学校
校長
坂本孝行
さかもと・たかゆき
同校に赴任して1年目。

稚内市立声問小学校
校長
山田篤秀
やまだ・あつひで
同校に赴任して2年目。

連携強化のための環境整備

人材配置や校舎改築の面で、教育委員会がサポート

北海道稚内市東部に位置する稚内東中学校、稚内東小学校、声問小学校の3校は、2008年度に同市教育委員会（以下、市教委）の「小中一貫教育実践研究事業」の指定を受けた。それを機に連携を強化し、学習指導や生活指導などの改善を推進している。市教委では、学校との役割分担を意識した支援を行っていると、表純一教育長は語る。

「本市には指導主事がおらず、具体的な指導助言を日常的に行うことができません。そこで、教育活動の内容については学校の判断を尊重し、市教委では3校が協働しやすくなるような環境整備に力を入れています」

具体的には、強いリーダーシップを発揮する教員を優先的に3校の管理職に配属するなど、人事面で配慮している。また、設備面での支援も重視する。同じ敷地内にある稚内東中学校と稚内東小学校は、以前は校舎が離れていたが、2013年度に行われた校舎の改築で、中学校の新校舎を小学校の校舎に隣接させ、両校舎を渡り廊下でつないで、教員同士の行き来をスムーズにした。

連携を推進する組織づくり

授業公開後に部会を実施し、子どもの実態を協議に反映

3校では教員間の認識を一致させるべく、2011年度には共通の「目指す子ども像」とそれを実現するためのグランドデザインを策定。その達成に向けたアイデアを検討する組織として小中一貫教育推進委員会を設置し、全教員が同委員会のいずれかの部会に所属することにした。当初は、教務部や生徒指導部といった校務分掌ごとの部会としていたが、現在は、「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）、生活指導、学力向上、特別支援教育、PTA・地域連携という、各校共通の課題に応じた5つの部会を設置している（図）。稚内東中学校の本間一臣校長は、そのねらいを次のように語る。

「校務分掌ごとの部会での議論では、生活習慣の確立や学力向上など、3校が力を合わせて取り組む必要のある重点課題が明確になりました。そうした課題への対応を、分掌を横断した部会に改編することで強化できるようにしました」

例えば、3校ともに子どもがメディアに接する時間が長く、家庭学習時間が少ないという課題があった。そこで、生活指導部会では、9年間を通して規則正しい生活習慣を身につ

け、家庭学習に向かいやすい環境を整えるため、インターネットなどの適切な活用方法を学ばせるという方針を策定。総合的な学習部会では、それを具体化する総合学習の授業内容について検討し、各校に提案した。

「教育活動には、学力向上と規則正しい生活習慣の確立など、互いに密接に関係する課題が多くあります。校務分掌を横断して取り組むことで、各課題へのかかわりを意識した協議を行い、対応策を形にできるようになりました」（本間校長）

各部会は、各校が全学年で授業公開を行う、年５回の「小中一貫の日」に実施する。その内訳は、稚内東中学校が３回、稚内東小学校と声問小学校が各１回で、それぞれ公開校となり、他の２校の全教員が参観する。授業公開後に部会を設定することで、子どもの強みや課題を具体的に語りやすくなると、稚内東小学校の坂本孝行校長は話す。

「学校の教育活動の柱である授業づくりを中心に連携するという方針を３校で共有しています。それにより、教員一人ひとりが授業において子どもの実態を意識した対応ができることを目指しました。また、全教員が集まる機会に部会を行えば、教員の日程調整にかかる負担を軽減できるというメリットもあります」

授業を通じた交流

各教科の授業進度を調整し、小小での交流を促進

いわゆる中１ギャップへの対応も最重要課題の１つとして位置づけている。その中心となる取り組みが、年３回、声問小学校の全児童が稚内東小学校を訪問し、両校の児童が一緒に授業を受ける小小交流だ。両校では各教科のカリキュラムや授業進度を調整し、多くの授業で交流できるようにしていると、声問小学校の山田篤秀校長は語る。

「本校の全児童数は14人で、児童は互いをよく知っています。しかし、中学生になれば、クラスの人数が何倍にも増え、新たな人間関係を築いていく必要があります。児童がそうした環境の変化に対応できるよう、児童数が多い稚内東小学校でともに学ぶ機会を定期的に設けています」

６年生の小小交流では、毎回、稚内東中学校の数学科と英語科の教員が、稚内東小学校で算数と英語の授業を行う出前授業も実施。小学校の最後の出前授業では、中学１年生の数学・英語の学習内容を紹介し、児童が中学校での学びを具体的にイメージできるようにしている。

「出前授業は、小学校２校が集まる機会に設定しています。教員への過剰な負担を抑え、無理なく続けられるように配慮しながら、子どもたちと中学校の教員との直接的な交流を大切にしていきたいという思いがあります」（坂本校長）

稚内市教育委員会
教育長
表 純一
おもて・じゅんいち
同市教育委員会教育部学校教育課、こども課長、教育部長などを歴任。2012年度から現職。

成果と展望

授業で交流を深め、生き生きと学び合う児童たち

一連の取り組みにより、小中で足並みをそろえた指導改善が図られるようになった。例えば、３校ともに授業の冒頭では必ずめあてを示し、最後には振り返りを行う。また、小小交流では、稚内東小学校と声問小学校の児童が生き生きと学び合っている。

「東地区での小中連携は着実な成果を上げています。今後も取り組みを継続し、さらに充実させられるよう、市教委では支援に力を入れていきます。将来的には、『連携』にとどまらず、『一貫』に発展させることも考えていきたいと思います」（表教育長）

図 令和元年度「東地区三校小中一貫教育」グランドデザイン（抜粋）

東地区の目指す子ども像
❶意欲的に学ぶ子
❷認め合い励まし合う子

小中一貫の日

活動の柱
①東っ子に「確かな学力をつける」ための共通実践を進める
②学びを支える地域・保護者との協働を大切にする

稚内市学校教育の指針
◎確かな学力の定着と地域に根ざした学校経営の推進
◎健康で豊かな地域社会の創造
◎安全で安心な子育て環境づくりの充実
◎豊かな人と文化を育む活動への支援

小中一貫教育推進委員会

総合的な学習部会
- キャリア教育の推進
- 探究的な学習の研究

生活指導部会
- 東っ子学びの姿の推進
- 情報モラル教育の推進

学力向上部会
- 相互の校内研究から学ぶ
- 9年間を見通す指導計画の整備

特別支援教育部会
- インクルーシブ教育の推進
- ユニバーサルデザイン授業の研究

PTA・地域連携部会
- 「稚内子育て提言」の見直し
- 講演会、懇談会等の企画

＊東地区小中一貫教育推進委員会提供資料を基に編集部で作成。